

経済・金融 フラッシュ

米10月ISM指数は、製造業が上昇の一方、非製造業が低下～雇用指数が明暗を分ける

経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

1、製造業指数の上昇(55.7)に対し、非製造業は低下(50.6)するも 50 は上回る

企業のセンチメントを示すISM(米供給管理協会)指数は、10月製造業指数(PMI)が55.7と前月(52.6)から上昇、市場予想値(53.0)を上回った。製造業の拡大・縮小の分かれ目となる50越えは3ヵ月連続となった。また、10月水準は2006年4月(56.0)以来約3年半ぶりの高水準となる。同指数は、昨年12月には32.9と1980年6月(30.3)以来28年ぶりの低水準を記録したが、その後、8月には50台を回復していた。発表元のISMでは、過去のデータから見たPMIが示す経済全体の分かれ目(GDPのゼロ成長)は41.2であり、10月PMIは実質GDP年率4.5%に該当するとしている。

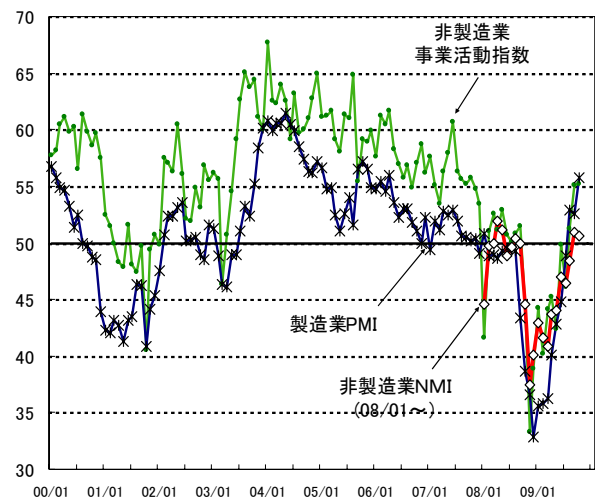
一方、10月の非製造業指数(NMI:注)は50.6と前月(50.9)から低下、市場予想(51.5)を下回った。NMIは昨年9月金融危機後に37.4(11月)まで急低下、その後持ち直し、9月には50.9と昨年5月(51.2)以来の水準を回復していた。10月は低下したものの、非製造業の業況の分かれ目となる50は連月で上回った。

ISM発表の両指数の推移を比較すると、昨年9月金融危機以降の落ち込みは製造業の方が大きかったものの、その後、製造業指数の改善が先行した形となっており、10月には上記のように3年半ぶりの水準を回復した。特に、製造業指数の主要な構成指数である生産指数は60台に上昇、回復の遅れが懸念されていた雇用指数でも50台を回復するなど事業の活発化が窺われる。

半面、非製造業指数は、消費の不振が重荷となる中、9月には50台を回復したものの、10月は伸び悩んだ。なお、10月は、それぞれの雇用指数が、製造業では53.1へと急

上昇したのに対し、非製造業では41.1へと低下してNMIを押し下げる主因となるなど、雇用指数の動向が明暗を分ける形となった。(注:NMI(=Non-Manufacturing Index)は、2008年1月より非製造業指数の総合指数として発表開始。事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延の各指数の均等ウェイトで構成される。)

(図表1) ISM指数の推移(月別)



(資料) Institute for Supply Management、以下も同じ。

(指数別の動向)

2、製造業各指数では、生産・雇用指数の上昇が顕著

PMI を構成する主要 5 指数（新規受注、生産、雇用、入荷遅延、在庫）で、上昇幅が最も大きかったのは、生産指数で前月から 7.6 ポイント（55.7→63.3）の上昇、以下、雇用指数が 6.9 ポイント（46.2→53.1）、在庫指数が 4.4 ポイント（42.5→46.9）と上昇した一方、新規受注指数は▲2.3 ポイント（60.8→58.5）の低下、入荷遅延指数は▲1.1 ポイント（58.0→56.9）の低下となった。

特に、雇用指数は 6.9 ポイントの急伸で 2 年ぶりに 50 台を回復、また、10 月水準は 2006 年 4 月（54.9）以来の高水準となる。同指数の 49.7 が雇用統計における製造業雇用者増減の分かれ目とされており、今後発表される雇用統計でどのように反映されるのかが注目される。

上記以外の指数では、価格指数が 1.5 ポイント上昇して 65.0 となり、全指数の最高値を維持した。同指数は原油価格が最近のボトムをつけた昨年 12 月に 18.0 と落ち込んだ後、ほぼ一貫して上昇、8 月には 65.0 をつけた後、一進一退の動きにある。なお、今回の雇用指数の上昇により、製造業の各指数のうち 50 を下回ったのは、在庫（46.9）、顧客在庫（38.5）の 2 指数のみとなった。この在庫指数については、ISM では 42.6 が BEA(商務省)の製造業実質在庫増減の分かれ目としており、7-9 月期まで大幅な調整を持続していた在庫投資の今後の動向が注目される。

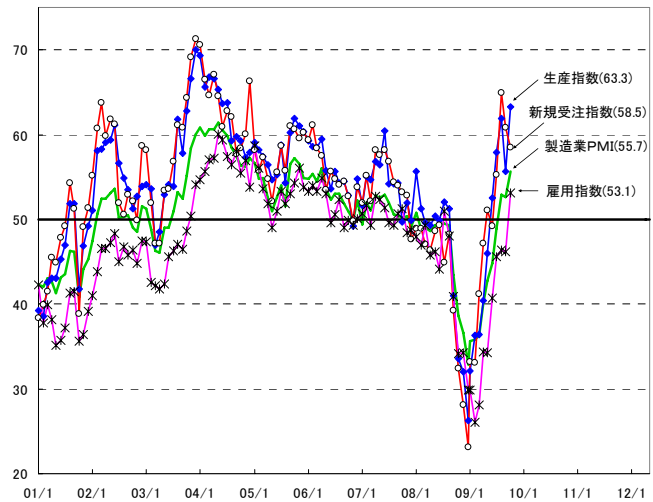
製造業指数全体の動きとしては、一連の在庫の大幅減を経て、在庫を補充する生産・雇用増の動きを示すものと受け止められるが、一方では、新規受注指数が低下しており、今後の回復ペース鈍化の可能性もあるため留意しておきたい。

3、非製造業指数は、雇用指数に押し下げられる

10 月非製造業の各指数の動きを見ると、総合指数（NMI）を構成する主要 4 指数（事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延）は、雇用指数を除いて上昇した。事業活動指数は 55.2 と前月（55.1）から若干の上昇、3 ヶ月連続で 50 台を回復した。同水準はリセッション前の 2007 年 10 月（55.7）以来の高水準であり、景況感の改善が窺われる。なお、事業活動指数について業種別に見ると、活発化した業種が 9 業種（教育、専門・科学技術、ヘルスケア、不動産・リース、管理・派遣業、小売・卸売業、鉱業、建設業等）、低下した業種が 7 業種（倉庫、金融・保険、情報等）となる。

また、新規受注が 55.6 に上昇、主要指数中では最も高く、事業活動指数同様に 2007 年 10 月（55.8）以来の高水準となった。雇用指数は主要 4 指数中唯一の下落を見せ、5 月以来の低水準となり、全指数の中でも最低位にある。同指数の業種別状況では、10 月に増員した業種は 3 業種（管理・派遣業、鉱業、不動産・リース）に留まり、減員した業種は 12 業種に昇る。その中には、雇用

(図表2) ISM製造業主要指数の推移 (月別)

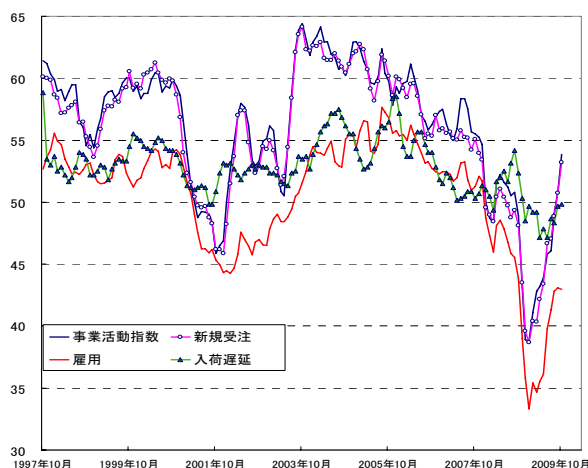


注：() 内の数値は 2009 年 10 月値

統計では数少ない増員業種とされるヘルスケア等も含まれており、今後の動向が注目される。

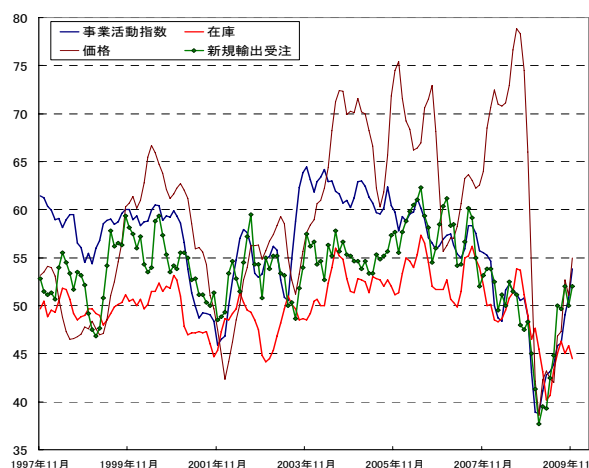
なお、その他の指数では、輸出受注の上昇（前月比+5.0ポイント）が大きかった反面、輸入指数（同▲5.5）、在庫指数（同▲4.5）等の下落が大きかった。

(図表3) I S M非製造業各指数の推移 (その1)



注：3ヵ月移動平均

(図表4) I S M非製造業各指数の推移 (その2)



注：3ヵ月移動平均

(図表5) I S M指数：製造業と非製造業各指数の一覧

製造業指数																	
	08年7月	8月	9月	10月	11月	12月	09年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	9→10月 変化幅
P M I	49.5	49.3	43.4	38.7	36.6	32.9	35.6	35.8	36.3	40.1	42.8	44.8	48.9	52.9	52.6	55.7	3.1
新規受注	44.9	48.2	39.2	32.4	28.1	23.1	33.2	33.1	41.2	47.2	51.1	49.2	55.3	64.9	60.8	58.5	▲ 2.3
生産	52.0	51.3	41.0	33.6	32.0	26.3	32.1	36.3	36.4	40.4	46.0	52.5	57.9	61.9	55.7	63.3	7.6
雇用	51.0	48.0	40.9	34.2	34.3	29.9	29.9	26.1	28.1	34.4	34.3	40.7	45.6	46.4	46.2	53.1	6.9
入荷遅延	54.1	50.5	51.8	49.3	48.6	45.7	45.3	46.7	43.6	44.9	49.8	50.6	52.0	57.1	58.0	56.9	▲ 1.1
在庫	45.4	48.4	44.0	44.0	40.1	39.6	37.5	37.0	32.2	33.6	32.9	30.8	33.5	34.4	42.5	46.9	4.4
顧客在庫	47.0	54.5	53.5	55.0	55.0	57.0	55.5	51.0	54.0	49.5	46.0	43.5	42.5	39.0	39.0	38.5	▲ 0.5
価格	88.5	77.0	53.5	37.0	25.5	18.0	29.0	29.0	31.0	32.0	43.5	50.0	55.0	65.0	63.5	65.0	1.5
受注残高	43.0	43.5	35.0	29.5	27.0	23.0	29.5	31.0	35.5	40.5	48.0	47.5	50.0	52.5	53.5	53.5	0.0
新規輸出受注	54.0	57.0	52.0	41.0	41.0	35.5	37.5	37.5	39.0	44.0	48.0	49.5	50.5	55.5	55.0	55.5	0.5
輸入	46.5	48.5	44.0	41.0	37.5	39.0	36.5	32.0	33.0	42.0	42.5	46.0	50.0	49.5	52.0	51.0	▲ 1.0
非製造業指数																	
N M I	49.6	50.4	50.0	44.6	37.4	40.1	42.9	41.6	40.8	43.7	44.0	47.0	46.4	48.4	50.9	50.6	▲ 0.3
事業活動	50.1	50.8	51.5	44.5	33.3	38.9	44.2	40.2	44.1	45.2	42.4	49.8	46.1	51.3	55.1	55.2	0.1
新規受注	48.0	49.5	50.6	44.3	35.6	38.9	41.6	40.7	38.8	47.0	44.4	48.6	48.1	49.9	54.2	55.6	1.4
雇用	46.8	45.6	44.2	41.7	31.1	34.5	34.4	37.3	32.3	37.0	39.0	43.4	41.5	43.5	44.3	41.1	▲ 3.2
入荷遅延	53.5	55.5	53.5	48.0	49.5	48.0	51.5	48.0	48.0	45.5	50.0	46.0	50.0	49.0	50.0	50.5	0.5
在庫	54.5	53.5	45.5	48.0	46.0	49.0	41.5	39.0	40.0	43.0	47.0	45.0	47.0	43.0	47.5	43.0	▲ 4.5
価格	78.8	74.1	70.6	53.3	37.0	36.1	42.5	48.1	39.1	40.0	46.9	53.7	41.3	63.1	48.8	53.0	4.2
受注残高	52.0	49.0	46.5	44.0	39.5	42.5	37.5	36.5	41.0	44.0	40.0	46.0	42.0	41.0	51.5	53.5	2.0
新規輸出受注	47.5	44.5	50.5	50.0	34.5	39.5	39.0	40.0	39.0	48.5	47.0	54.5	47.5	54.0	48.5	53.5	5.0
輸入	49.0	46.0	47.5	52.0	40.0	32.5	40.5	39.0	37.0	48.5	46.0	47.0	45.0	49.0	51.5	46.0	▲ 5.5
在庫セメント	62.5	66.0	62.5	67.5	65.0	65.5	62.5	66.5	60.0	62.5	62.5	67.0	62.5	67.5	62.0	63.5	1.5

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。